

第Ⅰ学年 A 組（男子 11 人、女子 10 人） 科目保健学習指導案

日 時 令和 5 年 2 月 13 日（月）4 校時目

場 所 1 年 A 組 HR 教室

授業者 教 諭 船 橋 基 己

1 単元名 (2) 安全な社会生活 (ア)安全な社会づくり

2 使用教科書 現代高等保健体育（大修館）

3 単元目標

- (1)安全な社会生活づくりについて、環境の整備とそれに応じた個人の取組について、理解することができるようにする。
- (2)安全な社会生活に関わる情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避する方法を適切に選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明することができるようにする。
- (3)安全な社会生活を実現するための自他の取組や環境づくりについて、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的な学習に取り組む態度
大 枠	安全な社会生活づくりについて、環境の整備とそれに応じた個人の取組について、学習したことをもとに言ったり、書き出したりしている。	安全な社会生活に関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避する方法を適切に選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明している。	安全な社会生活を実現するための自他の取組や環境づくりについて、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。
項 目	①様々な発生場面とともに、発生要因について、人的要因、環境要因の具体例をそれぞれ書き出している。	①安全な社会生活における事象や情報などを整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。	①安全な社会生活を実現するための自他の取組や環境づくりについて、課題の解決に向けた学習活動に主体的に取り組もうとしている。
	②安全な社会生活を形成するために、環境の整備や個人の取組、及び地域の連携が必要であることをいったり書き出したりしている。	②様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備の方策に応用している。	
	③交通事故を防止するための個人の取組や交通環境の整備、交通事故が発生した際の適切な対処の仕方や法的責任について、学習したことをもとに書き出している。	③交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ワークシートに記述したりして、筋道を立てて説明している。	

5 指導にあたって

(1)教材観

交通事故や転倒・転落、東日本大震災や、北海道胆振東部地震などの災害など、現代においては様々な事故や災害が発生している。学校での負傷事故など生徒自身が事故に遭遇する場面は多岐にわたり、生徒自身が生涯を通じて自らの心身の健康を保持増進していくために、事故等の防止に加え、発生に伴う傷害などの軽減を主体的に実践するための資質・能力を育成することが重要である。事故を防止するためには、場面に応じた適切な危険予測と危険回避を思考・判断、及び実践することが必要であり、これらは事故の発生要因を十分に理解したうえで目の事象と照らし合わせおこなわれるものである。そのため、本単元では、事故等の発生には個人的要因及び環境的要因が関わることを、交通事故などの事故の防止には、周囲の環境などの把握や適切な行動が必要であることを理解させたい。また、学習した内容を個人や社会生活と関連づけ、実生活において適切に危険予測、危険回避の行動を判断、実践するための資質・能力を育成したい。

(2)生徒観

本校は全日制普通科Ⅰ間口の学校である。公開授業を行う第Ⅰ学年の生徒は、基本的な概念などの知識の習得について、苦手意識をもつ者は少ないが、自分の思考の過程を整理したり、抽象的な概念を具体的に当てはめて思考したり、他者と協働し様々な視点から捉えた考えを総合的にまとめたり、それらを論理的に他者に伝えたりする力が不十分な者が多い。また、授業中、説明を聴く場面や、学習活動をこなす場面において真面目に取り組む様子は見られるが、学習内容を確実に定着させようと粘り強く学習に取り組んだり、さらなる向上を目指して家庭学習に励んだりするなどの主体性を十分に養えているとはいえない状況である。このような状況を鑑みて、粘り強い学習によって保健に関する知識・技能を確実に身に付けるとともに、他者と協働する活動を通して様々な観点から物事をとらえ総合的に学習を深化させる力を身に付けさせたい。また、自分の思考の過程等を、論理的にわかりやすく表現する力を身に付けさせたい。第Ⅰ学年には、様々な特性をもつ生徒がおり、他者と協働する場面に強く苦手意識をもったり、授業中の全体の進度についていくことを困難としたりする者もいる。そのため、ICTを効果的に活用し、事前に学習活動に見通しを持たせたり、自身の状況に応じて学習を進めたりできるよう生徒一人一人に応じたきめ細かい指導を展開していきたい。

(3)指導観

事故は身近に発生するものであるため、生徒は日常生活において自然と感覚的に危険予測、危険回避を行っていることが考えられる。そのためその行動の背景として挙げられる事故の発生要因などの基本的な知識を丁寧に学習することで様々な場面においても、感覚的ではなく、根拠をもった適確な危険予測、危険回避を行えるよう指導したい。また、一般的な知識を自分の生活圏の事象に当てはめて課題を考え解決していく学習を通して、学習した内容が、実生活において自分の健康の保持増進に大きく役立つことを実感させ、生徒が主体的に学習に取り組む態度を育成したい。他者との協働を通じて、自己の理解を深めたり、様々な視点から総合的に事象を捉えたりすることができるよう授業形態や展開の方法を工夫していきたい。生徒が事象を視覚的に理解したり、自己の状況に応じて学習内容や方法を選択したり、円滑に他者と協働学習を展開したりするために、効果的にICTを活用していきたい。

6 指導と評価の計画（6時間）（本時は3時間目）

	主な学習活動	知	思	態	評価方法
1	事故の発生要因として、人的要因と環境要因があり、事故を防止するためには、環境の整備、個人の取組、地域の連携が必要であることについて理解する。 1 事故の発生要因と、防止策について説明をきく。 2 交通事故を事例として、一般的な発生要因と防止策について調べてワークシートにまとめる。	①			ワークシート
2	北斗市の事故の現状を把握し、発生要因、危機回避の方法を考える。 1 北斗市の事故の概要について説明を聞く。 2 北斗市の事故発生場所について「北斗市 HP 内北斗市交通事故発生マップ」を用いて調べ、グループで危険予測、危険回避箇所を決め、分析を始める。		①		ワークシート
3	「北斗市交通事故発生・危険回避マップ」を作成する。 1 Google マップストリートビューを使い、実際の事故現場を見ながら、どのような事故が起こる可能性があるのか、どのような回避の仕方があるのかをこれまでの学習をもとに考える。その際グループ内で、事故発生要因や防止対策について、個人的要因と環境的要因に役割分担することで、様々な視点からの危険回避策をまとめることができるようにする。（各グループにつき、3、4地点担当する） 2 考えられる発生要因と、危険回避の仕方を発表する。	②			各グループ jamboard ワークシート
4	自分たちで考えた対策を他者に伝え、他の意見を取り入れブラッシュアップする。 1 教室内、ワールドカフェ方式で発表と質疑応答を行う。 2 出された意見をもとに、改めて危機予測、危機回避を行う。		②		観察 活動の様子撮影
5	北斗市交通事故発生・危険回避マップ」を外部にプレゼンする。 1 北斗市総務課交通安全係（交通事故発生マップ担当部署）及び警察関係者にプレゼンする。 2 いただいた指導、助言等をもとに再考、ブラッシュアップを図る。	③			ワークシート 観察
6	事故を防ぐためには、個人の取組、環境の整備だけではなく、地域との連携も重要であることを理解し、個人が取り組んだ内容をどのように地域とつなげるかを考え、これからの学習につなげていく。 1 今までの学習内容を確認する。 2 作成した危険回避マップをどのように活用すれば、北斗市の事故発生数を減少させられるか考える。 3 単元を通じて学んだことをこれからの生活にどのように生かしていくかをワークシートに記入し、発表する。		③	①	ワークシート

7 本時の学習について

(1) 本時の目標

これまで学習した個人的要因と環境的要因の観点から思考したことをもとに、どのような事故が起こる可能性があるのかを予測し（危険予測）、どのような回避の方法があるか（危険回避）を考え、まとめることができるようにする。

(2) 本時の評価基準（知②）

A	B	C
交通事故に関する危険予測、危険回避を適切にするために、環境の整備や個人の取組、及び地域の連携が必要であることを、過去の事例など根拠となる事例を関連させながらいったり書き出したりしている。	交通事故に関する危険予測、危険回避を適切にするために、環境の整備や個人の取組が必要であることをいったり書き出したりしている。	交通事故に関する危険予測、危険回避についての理解が不十分で、環境の整備や個人の取組が必要であることをいったり書き出したりすることができない。

※Cの生徒について、前時までの学習における「一般的な事故の発生要因」が理解できていないことがあげられるので、配信している説明動画を視聴させる。また、一般的な事故の発生要因を具体（実生活）に落とし込めていないことが考えられるので、教師が作成した例を提示することで手立てとする。

(3) 展開

段階	学習内容と学習活動	学習形態	教師の指導・支援 (◆評価基準と方法)
導入	1 前時の振り返りをする。	全体	○本時の学習内容を提示し、ねらいや活動内容について理解できるようにする。
	2 本時の学習内容について確認をする。	全体	
	【本時のねらい】 事故が発生したと思われる地点について、事故発生の個人的要因、環境的要因を分析して危険予測と危険回避を考えよう。		
展開	3 設定した地点のスクリーンショットを貼り付けた jamboard シートに、分析内容を付箋で貼り付けていく。 どのような事故が起きそうかグループ全体で共有してから、車両目線（自転車含）の個人的要因と環境的要因、歩行者目線の個人的要因と環境的要因に役割分担して取り組んでいく。 4 自分が担当した付箋の内容についてグループのメンバーに説明する。相互に意見を出し合い、違う視点から捉えたり、付箋を増やしたりする。	グループ	○教師は自身の端末で各グループの進捗状況を確認しながら、活動が進まない生徒に対してコメント機能や机間指導を行う。 ・一般的な交通事故発生要因の（例）を用いて、実際の現場に（例）のどの場合が当てはまるか考えさせることで円滑な思考活動を支援する。 ・危険予測が立てられないグループに対して、ストリートビューで見る視点を変えてみるよう助言する。 ○他のメンバーからの意見を取り入れたり、見方を変えたりしながら、自身の考え及びグループの分析内容についてブラッシュアップするよう指導する。
まとめ	5 グループで担当した地点について、事故の危険予測、危険回避の説明文をスプレッドシートに記入する。 6 次時の活動に見通しをもつ	個人	○自分が担当した部分だけでなく、他のメンバーの説明も取り入れ、総合的な説明をするように指導する。 (◆知②グループで作成した jamboard、個人で作成したスプレッドシートの説明文)

